

# みどりの掲示板

## 石澄川沿いに50mの仮散策路!



大阪府池田土木事務所は、箕面川、石澄川の合流点付近の住みよい環境づくりを目指している「瀬川親水・散策の場をつくる会」との話し合いの結果、同地区の石澄川沿い護岸に約50mの散策路を作ることに合意しました。

本格的に完成すれば、プランターの花や緑の木々に親しみながら川辺を散策できそうです。

両川の合流点付近では3年前、地元の人に親しまれてきた柏檜の大木が防災上の理由から伐採されました。それをきっかけに周辺の護岸、河畔林をめぐって住民らでつくる「散策の場をつくる会」が池田土木事務所と何度も話し合いを続けてきました。その結果ようやく、このほど石澄川沿いに、約幅2m、長さ約50mにわたる、住民がテスト的に歩いてみる仮の遊歩道が作られました。

土木事務所河川砂防グループでは「仮散策路にプランターを数ヶ所に置き、散歩しながら花や緑を楽しめるようにします。しかしすぐそばの住民のプライバシーとの兼ね合いもあり、当分仮遊歩道として様子を見てみようと思っています」と話しています。「散策の場をつくる会」では今後、この遊歩道の成果や“体験”を踏まえ、さらに両川上流の府有地を含む地域一帯の散策路の在り方についても話し合っていくことになっています。

## ＼お神輿に出会い／ 活気溢れるタウンウォッキング

箕面まちなみ会議のタウンウォッキングは昨年10月16日、小野原東から新家までの旧西国街道東部周辺を巡りました。

この地域は、昔は小野原村と呼ばれていて、古い集落が集まっており、江戸末期から明治にかけて建てられた古民家がたくさん残っています。春日神社の秋の例大祭に合わせて企画だったので、閑静な住宅街がお祭り一色に染まっていて、各家の玄関先には御神燈の提灯が下がり、祭り半纏を着た人がたくさん往来していました。平素は門が閉じられていて、お家の中は見られないのですが、お祭り当日なので、立派な前庭の植木や母屋などが拝見でき、特別のタウンウォッキングになりました。途中、お神輿の行列に出会い、なかなか前に進めない状態でしたが、ようやく春日神社に到着。境内には幟がはためき、屋台がたくさんでていて、平素の静謐さとはまるっきり違う活気溢れる風景でした。

最後は、新家の大鳥居で解散しましたが、この大鳥居の前にも、提灯や幔幕が掲げられ、お祭りの雰囲気を堪能できました。

また、伝統のあるお祭りを守っておられる地域住民の方々ともお話しができ、よきまちなみ景観は、そこに住んでおられる方々の心意気で保たれていることを実感した一日でした。

▲春日神社のお祭りでぎわう西国街道をタウンウォッキング

### Column

## 住民が「田」を… 荒らされた公園

昨日10月中旬、西宿の古井戸公園が荒らされました。看板が割られ、植えっぱかりの桜の支柱も4本引き抜かれていました。腐葉土を作っている大きな箱のブルーシートもはがされ散乱していました。どうやら野宿用のテントをつくったらしいのです。

公園が荒らされた「田」があちこちに散らばっているケースはそう珍しいことはありません。古井戸公園と国道423号線を挟んで向かい側の段々公園（萱野2）でアドボト活動をしている人たちは、夏の間は毎朝のように花火の燃えカスや紙くずの掃除から始めるそうです。特に「田」には調整池があります。その階段が若い人たちの格好のたまり場になつてあり、夜遅くまで騒々しいそうです。

一部の人たちの心無い行為でしょうが、こうしたことを防ぐヒントがあります。

箕面西北公園（箕面7）でも、5～6年前までは若い人たちが夜遅くまで騒々しいです。この吸い殻がよく落ちていました。しかし、近くの人たちが見てまわったり、いつも余が根気よく掃除を繰り返しているそうです。

「みんなの広場」としてやつてある「みんなの広場」で、若者も

「光らせるとともに、「みんなの広場」をつくって、住民が「田」を

集まらないくなつたそうです。

「みんなの広場」をつくって、住民が「田」を

集まらないくなつたそうです。

「みんなの広場」をつくって、住民が

竹とんぼ、干し柿  
さつま芋ほり…

# 自然に触れるこどもたち

自然に親しみ  
仲間を増やす

▼竹とんぼ作りに挑戦する子どもたち(山とみどりのフェスティバルで)



箕面駅  
滝道

## 竹とんぼづくりに挑戦!

昨年秋、箕面駅周辺と滝道で開催された「山とみどりのフェスティバル」でこども達の人気を集めていた「竹とんぼ作り」

「みのおエコクラブ」の佐藤謙さん(72)が乾燥させた竹を小刀で丹念に削り、キリで穴をあけ、羽根の左右のバランスをとるようにやすりをかけて完成させるのを7~8人のこども達が取り囲み、見よう見まねで挑戦していました。

みのおエコクラブは自然に親しみながらこども達がモノ作りに励んだり仲間を増やすのを応援しています。新稻に専用の畑もあり、隼人ウリやサツマイモを植えたり、干し柿づくり、タケノコ堀りも楽しんでいるそうです。

入会希望者は **080-3542-4823(佐藤謙さん)**まで

生きもの人気投票!

## 少女は断然お花が大好き!

昨年11月のNPOフェスタで「好きな生きもの」人気投票が行われ、小学生以下の女の子のお花好きがきわだって多いことがわかりました。投票は、箕面で見られるアサガオ、ハボタン、サクラなどの花とホタル、カマキリ、トンボなど小動物の写真を9枚ずつ計18枚を張り出し、好きなものにしるしをつける方法で行われました。その結果、「ヒマワリ」「ツバメ」「ホタル」「サクラ」

## 情報プランター

### 花とみどりの学校1期生ー「中級コース」で学ぶ

花とみどりの人材育成を目指す「箕面・花とみどりの学校」(校長・甲角裕子さん)は、一昨年7月に終えた基礎(初級)コースの受講者を対象にフォローアップのための「中級コース」を開いています。

一昨年秋の前半の3回に続き昨年10月から後半の4回を大阪コミュニティ財団の協力を受け開講。

元園芸高校教諭やNHKの園芸番組講師らの指導で、より深い内容の授業を進めています。

▼保育園児がお母さんと一緒に花をいけました



かやの  
中央

## ママとお花を生ける!

昨年9月下旬「花と話そう」をテーマに、ちびっ子と育児中のママがお花と触れ合う催しを「NPO花とみどり」などが開催!

参加した親子3組は、まずかやの中央の古井戸公園で、夏花壇から冬花壇への植え替えで要らなくなるマリーゴールドなどのお花を摘みました。その後、摘んだお花を使って幼児でもできるプラスティックのカップでの「ミニ生け花」にチャレンジ。カップいっぱいのお花は色鮮やかで、ちびっ子もママも大喜び。公園の花壇の世話をしてきたボランティアたちも、「きれいなお花を取り除くのは残念だったが、そのお花が有効利用されてうれしい」と笑顔。

この催しをコーディネートした女性も、「今までやった取組の中でも、特別に楽しかった」と、これまた笑顔で話していました。

がいすれも35票以上集めて人気があった一方、「セイタカアワダチソウ」「ニホンザル」が10票未満の不人気ぶりでした。ニホンザルは滝道でのいたずらが忘れられないのでしょうか。

花か小動物かどちらが好きかを男女別にみると、小動物は男女ほぼ同じでしたが、花は女性が男性の4倍以上の票数を集めました。小学生以下に限ると、男の子が20票に対し女の子は100票以上にのぼり、女の子のお花好きがきわだて目立っていました。「NPO花とみどり」は、今後も調査を進め花育や自然教育に役立てたいとしています。

第6中学(粟生間谷西1)の通学路沿い駐車場斜面一面にキバナコスモスがほぼ5ヶ月間咲き続けており、登下校する生徒たちの目をなごませています。

斜面はおよそ100mほどあり幅10mにわたって黄、オレンジの花が群生しています。

5年前まで、雑草が伸び放題だったこの斜面を箕面粟生第4住宅の富岡明さん(64)がこつこつ整地。2年前そこにキバナコスモスのタネをまくと一気に斜面一面に広がったそうです。富岡さんによるとキバナコスモスは病害虫に強く、繁殖力が旺盛で、おまけに世話がかからないといいます。

▼通学路沿いに咲き競うキバナコスモス



粟生間谷  
西1



「肥料もやらないのに梅雨明けごろからぼつぼつ咲き始め、11月まで楽しめます。来年は斜面の下部まで広がるでしょう」と話しています。花言葉はしばり「野生美」。

◀5年がかりで荒れ地に花を咲かせた富岡さん

## サクララン 20年目にやっと開花

薄いピンクの花びらで人気のある「サクララン」を世話し続けてきた中田恵美子さん(粟生新家5-7)が、20年目にやっと開花させました。



粟生新家  
5

サクラランはサクラ科でもなければランの一種でもなく、ホヤとも呼ばれる観葉植物です。ツルの先に開花するので支柱を立てる見栄えがするようです。中田さんは20年ほど前に手に入れ、

部屋の中で育ててきました。これまで花を付けたことがなかったので観葉植物として世話を続けてきました。昨年秋「咲くやこの花館」でまたまたサクラランが咲いているのを見て「こんな花が咲くんや」と思って帰宅。すると数日後、突然つぼみをつけ開花したということです。

「感激しましたね~。20年も世話をしてくれたので咲いてやろうかと思ってくれたのでしょうかね」。今年うまくサクララン?

◀20年ぶりに咲いたサクララン(中田さん提供)

▼玄関先を色鮮やかに飾る葉ボタン(土田さん提供)



桜ヶ丘  
3

## 葉牡丹こんもり、色鮮やかなコリウス

おしゃれな庭が多い桜ヶ丘地区でも、土田光子さん方(桜ヶ丘3-1)の庭はひときわカラフルに目立っています。

まず玄関で迎えてくれるのはコリウス。赤に緑の模様が混じった大小の葉が生い茂っています。シソ科の木で季節によって紫、青、オレンジにも変身するようです。

「日当たりのいい場所に挿し木しておくと簡単に増えます」と土田さん。

背の高い観葉植物のドラセラや紫色の可憐な花などがあちこちに植わっています。

お正月には葉牡丹が1鉢に10株以上競うように伸び、さらに春になると、庭の入口にある藤の花のアーチが覆いかぶさるように咲くので評判です。

▲コリウスは時期によって葉の色を変えていきます

